

### 第3回新塩尻市立平出博物館基本計画策定委員会議事概要

- (1) 日時：令和4年5月23日（月）午後2時～5時
- (2) 場所：塩尻総合文化センター2階大会議室+リモート会議
- (3) 出席者 委員 11名出席、1名欠席、生涯学習部長、事務局
- (4) 議事内容

①第2回策定委員会の議事概要について

②基本計画の内容について

基本計画案を事務局より説明

ア 第2回策定委員会資料からの変更について

イ [全体計画] 博物館のコンセプトについて

ウ [展示計画] コンセプト展示について

エ [施設計画]

a.平出の全体計画について

b.収蔵計画について

c.交流スペースについて

オ [管理運営計画]

a.民間活力の導入検討について

b.利用料金設定について

③その他

#### 議事概要

① 第2回策定委員会の議事概要について

・ 議事内容で承認とする。

② 基本計画の内容について

【議題・主な意見等】

ア 第2回委員会資料からの変更について

・ 議事内容で承認とする。

イ 理念・コンセプトの整理について

<まとめ>

・ 「歴史をつなぎ 未来の塩尻を想う

出会い、集い、学びあい、ともに成長する博物館」 がよいと考える。

<委員の主な意見>

・ 誰のための、誰がどうなるのかなど、主語が明確なものの方が良い。

・ 次世代を担う子どもたちが「考える」ための施設としたい。

- ・主題と副題は逆のほうがわかりやすい。
- ・博物館は子どもたちや大人が学びあう場という意味を盛り込みたい。「語らい」は「集い」に含まれるので、「学びあい」の方がよい。
- ・「明日」は限定的な印象があるので、「未来」とした方がよい。
- ・博物館に来て疑問を感じてもらいたい。塩尻を想う前提として、疑問を感じるということが重要である。
- ・この博物館は、世代や地域の歴史、思いをつなぐ博物館であると考え。したがって、「歴史を感じ」ではなく、「歴史をつなぐ」とすると目指すところが具体的に見えるのではないか。
- ・「5000年」については、館のコンセプトには盛り込まず、具体的な展示の中で気がつかせるようにしたい。

## ウ コンセプト展示について

### <まとめ>

- ・コンセプト展示案の内容には大きな変更はない。
- ・郷土愛は、展示を通し考えた結果として、郷土を考えるきっかけとなるということとする。
- ・長期スケール展示は複数のスケールにし、可変的にする。
- ・地形スコープ展示は、自分たちの住んでいる場所を認識できるようなものになるとよい。
- ・いにしえテーブルは、仮題を優しい表現に変更する。自由にレイアウトを変更でき、語らえる場とする。子どもたちに限らず、市民が気軽に語り合える雰囲気としたい。

### <委員の主な意見>

- ・郷土愛は強制するものではない。・コンセプト展示も館のコンセプトと同じで、不変なものとして考える。

#### ○長期スケール展示

- ・実際の長さで視覚的にスケールを感じることは、わかりやすくよい。アレンジを加える場合には恣意的になるので検討が必要。
- ・人類が日本列島に来てからの長さとの比較ができると良い。地球の歴史での人類の歴史の短かさを実感できることも大事。
- ・歴史も未来も変わるものなので、可変性に対応できるようにする。
- ・長期スパンで物事を考えるヒントとなる展示がしたいことに主眼がある。文言の「後世に伝える・残す」は縛りとなり、理解しにくくなる。削除する。

#### ○地形スコープ展示

- ・地形地質は変わらない。そこの舞台に生き、営みがある。過去と現代・未来をつなぐことができる。

#### ○いにしえテーブル

- ・名称を語らいテーブルや、もっとやわらかい言葉に置き換える。ぺちゃくちゃ・おしゃべりを塩尻らしい表現にできるとより良い。
- ・子どもも関わる表現を盛り込んだ方がよい(ex.わいわいテーブル、おしゃべりテーブル)。

## 来館者目標人数の検討について

### <まとめ>

- ・ 目標人数を設定する場合は、入館者だけでなく、幅広い視点で検討する。
- ・ 入館者数だけで評価せず、幅広く考える。
- ・ 来館者を増やす取り組みとして、博物館を知ってもらうきっかけとなるイベントの開催等運営の工夫など、利用してもらうための方法を考えていく。

### <委員の主な意見>

- ・ 来館者数のカウント方法によって異なる。有料入館者数として5万は難しいと考える。
- ・ 子どもに興味を持ってもらう手法を考える必要がある。親子で来たくなる施設にできればよい。
- ・ 展示回数が増えると学芸員の負担が増える。イベントは学芸員だけが行うのではなく、えんばーくや公民館との連携・活用により、一部の活動を博物館で開催してもらう等連携が必要。
- ・ 来館者数に捉われすぎない方がよい。来館者数の他に、博物館に関わった人をカウントする利用者数という考え方もある。ホームページを閲覧した人、外部での博物館活動に参加した人、オンライン講座参加者等も利用者と考えられる。
- ・ 来館者数を増やす取り組みとしては、博物館の活動に直接関係ないイベントの開催などがある。それをきっかけに、博物館を知ってもらうということもある。
- ・ 指定管理導入によって、活性化された事例は多くある。運営によって、来館者数はだいぶ違う。
- ・ 来館者目標だけが一人歩きするのはよくない。入館者数だけで評価せず、幅広く考えるべき。

## エ [施設計画] a. 平出の全体計画について

### <まとめ>

- ・ 現博物館と記念館は歴史的価値がある建物である。価値や保存活用を検討した上で決定をする。
- ・ 全体計画図は、周辺環境の具体がわかるように、情報をもっと盛り込む方がよい。

### <委員の主な意見>

- ・ 比叡ノ山からはガイダンス棟や桔梗ヶ原まで一望できる。頂上までのルートの設定や案内板等の整備ができるとよい。

## エ [施設計画] b. 収蔵計画について

### <まとめ>

- ・ 資料に応じた環境で、可能な限り、資料を残す努力をする。
- ・ 土砂災害警戒地域になる現博物館は収蔵庫への転用は避けた方がよい。

### <委員の主な意見>

- ・ 収蔵は博物館にとって非常に重要である。最初から満杯にするのではなく、できるだけスペースを確保する必要がある。
- ・ 現段階でまだ研究対象となっていない発掘資料についても、将来的に価値が見いだされる可能性があり、取り出し確認ができる状態としておく必要がある。
- ・ 厳密な温度管理が必要でない資料は簡易的な施設でも、資料は残す努力をした方がよい。

## エ [施設計画] c. 交流スペース

<まとめ>

- ・運営も視野に入れ、必要なこととできることを考えておく必要がある。
- ・周辺環境を周遊する拠点施設とする場合、博物館だけではなく、市全体としてどうするのかを考える必要がある。

<委員の主な意見>

- ・騒いでよい場所なのか静かにする場所なのか、使う想定をしていく必要がある。
- ・屋内か屋外空間なのかによっても使い方が異なる。
- ・明るい空間を目指す場合には、展示にも影響があるので、展示空間との切り分けが必要である。
- ・遺跡やガイダンス棟との活動の連携をイメージし、設計段階で配置を検討する必要がある。

オ [管理運営計画] ①民間活力の導入検討について

<まとめ>

- ・市側で学芸業務は行い、方針を変えないようにした方がよい。
- ・収集保管、調査研究は博物館の根幹なので博物館側で行うべきと考える。教育普及は指定管理でも可能。展示の主導権は博物館側が持つとよい。

<委員の主な意見>

- ・指定管理者がすべての博物館業務を行う場合（パターン C）、悪い事例では博物館の収蔵資料が壊滅した事例もあり、注意が必要である。
- ・指定管理者側で配置学芸員を頻繁に変更する事例もある。市側で学芸業務は行い、方針を変えないようにした方がよい。

オ [管理運営計画] ②利用料金設定について

<まとめ>

- ・入館料を含め、全体的にいかにも博物館の負担を減らせるか、同時に、市民に説明がつけられるかといったところを重視して進めてもらいたい。
- ・入館料を「地域を支えるためのお金」など、市民意識を変えられるような方向性を持たせていきたい。

<委員の主な意見>

- ・図書館と同様に、博物館も本来無料であるべきである。
- ・何度も足を運んでもらうために、市民や高齢者など、なるべく無料対象者は増やしたほうがいい。また、地域の将来を担う高校生までは無料にしてほしい。
- ・ランニングコストの 25%を徴収することは不可能である。
- ・入館料という考えではなく、地域を支えるためのお金、平出を守るお金、といった名目にする方が、地域の博物館としてはよい。
- ・収益という観点ではなく、入館料を徴収する方が、市民の宝として、博物館を大事に思ってもらえると感じる。